

国府支援の久米先生は、徳島市にある方上小学校と南部中学校でのPBS（ポジティブ行動支援）の取り組みについて報告しています。

---

### 方上小学校の状況と課題

- **現状の取り組み:** 委員会が月に一度の目標を担当するシステムを導入し、子どもたちが主体となって目標達成のための工夫を話し合っています。これにより、推進リーダー以外の先生方も自然とPBISの活動に関わるようになり、学校全体で協力体制が築かれています。特に、6月の衛生検査に関する取り組みでは、マスコットキャラクターと紙風船を組み合わせたアイデアが成功し、子どもたちの行動変容に繋がりました。
  - **悩みと課題:**
    - 新しく赴任された校長先生と推進リーダーとの間で、PBISに対する温度差や方向性の違いがあり、推進リーダーはプレッシャーを感じているようです。
  - **庭山先生のコメントと助言:** 管理職の異動はよくあることで、新しい校長先生の教育方針をPBISの枠組みに取り込むことを提案しました。PBSが「新しいことをする」のではなく、校長先生が目指す「子ども像」や「学校教育目標」を、具体的な行動レベルに落とし込んで実践するためのツールであることを丁寧に説明することの重要性を強調しました。
- 

### 南部中学校の状況と課題

- **現状の取り組み:** 年度初めに一度研修を実施したきり、久米先生が学校を直接訪問する機会は少ないものの、生徒会担当の先生とメールや電話でやり取りを続けています。7月には生徒会が中心となり、挨拶運動を実施しました。挨拶できた生徒の数に応じてシールを貼る「挨拶の木」を作成し、先生方からは挨拶が増えたとの主観的な感想が得られました。
- **悩みと課題:**
  - 生徒会の先生方が自主的に活動している一方で、久米先生が関与できていないため、より良い改善策を提案できていないことにジレンマを感じています。
  - 昨年度まであった生徒会のスローガンが、新校長先生の「校訓」重視の方針とずれてしまい、マトリックスの活用が難しくなっている状況です。
- **庭山先生のコメントと助言:** 先生方が自主的に取り組んでいることを高く評価し、久米先生は適切な距離感でサポートしていると述べました。今後は、生徒会メンバーの交代時期に合わせ、新しいメンバーへの研修を実施する機会を設けることを提案しました。また、挨拶の木の取り組みを数値化できるよう、日ごとにシールの色を変えるなどの具体的なアドバイスも行いました。

## 脇町小学校の状況と課題

脇町小学校では、大塚先生が中心となってPBISを推進しており、現在は「言葉遣い」をテーマに全校で取り組んでいます。具体的には、朝の会で言葉遣いについて確認したり、学校の掲示板に「わきしょうの木」として良い言葉を掲示したりして、日常的に児童が意識できるような工夫をしています。この取り組みは継続されており、今後も続けられる予定です。

---

## 脇町中学校の状況と課題

脇町中学校では、松原先生が推進リーダーとして活動していますが、全中大会や定期考査などの学校行事のため、委員会活動が進めにくい状況です。しかし、昨年度からの取り組みで、先生と生徒が話し合う時間が増え、お互いの良いところを見つけられるようになり、学校全体の雰囲気は良くなっているとのことです。

- **課題：**
    - 委員会活動の進捗がばらつき、全体でのキャンペーンがなかなか実施できていません。
    - 樋川先生自身の巡回日と委員会活動日が重なってしまい、直接的な支援が難しいという課題があります。
  - **庭山先生の助言：**
    - PBISは「探索段階」「導入段階」「完全実施」の4段階で進められることが重要であり、特に導入段階では教職員間の合意形成が大切であると述べました。
    - PBISの枠組みは様々な場所で活用可能であるとし、部活動でマトリックスを作成する事例や、各委員会が目標とすることをマトリックスに反映させるボトムアップのやり方などを提案しました。
    - 「PBISの取り組みは、日常的に意識できるように、単発で終わらせないことが重要である」と伝えました。
- 

## 脇町幼稚園の状況と課題

脇町幼稚園は昨年度に全体での発表会を終えたため、一区切り感があり、活動が停滞気味です。しかし、日頃の声かけは引き続き行われています。今後は10月・11月にかけて、活動を盛り上げていきたいと考えている状況です。

- **庭山先生の助言：**
  - 行事や日々の活動の中で、PBISの視点を取り入れることを提案しました。
  - 目標とする行動を具体化し、子どもたちが達成できるように事前に工夫すること、そして、子どもたちが頑張っていることを先生方がどう褒めていくか考えることが重要であると伝えました。
  - 「やんわりと、でもしつこくやり続けるのが大事」と述べました。

## 1. 芝田小学校の状況と課題

- **現状の取り組み：**挨拶を目標行動として、全校生徒を巻き込んだキャンペーンに取り組んでいます。これは昨年度よりも対象学年が拡大されたバージョンアップ版です。
  - **悩みと課題：**
    - 昨年度の**推進リーダー**と**校長先生**が今年度から変わり、後任の先生方は前任者と比較して、活動量や進め方に差を感じ、推進リーダーは自己肯定感が低下していると中川先生は感じています。
    - 昨年度は校長先生が保護者向けの文書（「タケノコ」）でPBISの取り組みを積極的に発信していましたが、今年度はそこまで精力的ではないとのこと。
  - **庭山先生のコメントと助言：**先生の異動によって取り組みが一時的に停滞するのは当然のことなので、焦らず無理のない範囲で進めていくことが重要だと述べました。また、中川先生のサポートが重要であると伝え、長期的な視点で考えることを提案しました。
- 

## 2. 小松島中学校の状況と課題

- **現状の取り組み：**生徒会と各委員会が主体となり、PBISの考え方に基づいて学校を良くするための企画を実施しています。4月に実施されたPBIS研修以降、校長先生は**全国学力学習状況調査**のアンケートで「先生がよく褒めてくれる」という項目が飛躍的に伸びたと実感しています。また、生徒指導主事の先生が月例会で生徒を叱るのではなく、良い行動を褒める時間にするなど、学校文化に変化が見られるとのこと。
- **悩みと課題：**
  - 12月に3年生が委員会活動から抜けるため、引き継ぎや活動のまとめをどうするかが課題となっています。
  - 委員会によって活動の進捗に差があり、企画書がなかなか提出されない委員会もあるなど、統一的な活動の推進が難しいという悩みが共有されました。
- **庭山先生のコメントと助言：**良い行動を褒める文化が根付いてきていることを高く評価しました。また、生徒が企画書を作成する取り組みは素晴らしいと称賛し、他の学校の事例として、良い行動を生徒指導部に通報する制度や、行動の前（A）と後（C）の工夫を意識的に盛り込むような企画書のフォーマットを紹介しました。今年度から無理に導入するのではなく、徐々に試していくことを提案しました。